

地水火風

牧野 恒一

「先月号の訂正

先月は、ドイツのボラ
ンティア消防の驚くべき
実態を報告したが、2点
ご指摘を頂いたので訂正
しておきたい。

一つは、オッフエン
バハ郡消防研修センター
の運営についてだが、

「州」ではなく「郡」の運
営だということだ。35万
人の郡であつただけの施設
を持つてゐるということ
になつた。

他の郡でもそれぞれ立
派な研修センターを持つ
て、ボランティアの研
修・教育に当たつてゐる
といつて可い。

もう一つは、ノイ・イ
ゼンベルグ消防署の

「専従職員」についてであ
る。彼等は消防署の建物
や設備の維持管理等の業
務に常勤として就いてい
るのであつて、「専従の
消防隊員」ではないとい
ふことだ。

従つて、彼等が昼間の
勤務中に出勤する場合
は、その勤務（消防署の
維持管理等）から離脱し
て、無給で消防活動に従
事することになる。つま
り、ノイ・イゼンベル
グ消防署の「消防隊員」

125人は、全員がボラ
ンティアなのだ。オッフ
エンバハ郡全体でも

「専従の消防隊員」は一人
もいないといつたことだ。
以上のように、訂正し
たら、ますますドイツの

ボランティア消防の凄さ
が際立つてゐることに
なつた。

「消防研修センター」の教
育・訓練内容は極めて高
度

さて、前回、オッフエ
ンバハ郡消防研修セン
ターの教官がほとんどボ
ランティアだと報告した
が、今回はその教育・訓
練の水準を見てみよう。

たとえば、空気呼吸器
着装訓練コースというコ
ースがある。空気呼吸器
を着装し、フィットネス
クラブのような施設で、
はしご昇降やエルゴメー
ターによる自転車こぎな
どを行う。

また、暗闇で煙を充満
させ、輻射熱源を置いた
立体迷路を通過する訓練
もある。立体迷路は訓練
生の状況を確認できるよ
う鋼棒を組み合わせた、
縦横10m以上、高さ2m
以上の檻のような形で、

上下2段に仕切られ、さ
らに多数の小部屋に分か
れてゐる（フィンランド

でも、同じような施設で
3段重ねのものを見た。

ヨーロッパには、この種
の施設を受注する専門メ
ーカーがあるのかも知れ
ない。そこを、扉を開
いたり、マンホールを開
けたりしながら通過す
る。

このコースの仕上げ
は、空気呼吸器の着装↓

フィンランドのボラン
ティア消防

フィンランドでは、都
市部の消防は専従職員に
よる公設消防機関が担
い、地方では地域住民が
ボランティア消防組織
を結ぶ、契約内容に応じ
て活動費を支給される、
という点だ。

我々が訪問したヘルシ
ンキ郊外エスポ市（人
口7万人）のピトカヤル
ン消防団（同市には9
つの消防団がある）の場
合、ピトカヤルン地区

的知識と技能が必要なも
のについても、きつと同
様の考え方でカリキュラ
ムが作られてゐるに違
ない。

なるほど、これなら、
ボランティアでも高度な
装備を使いこなせるだろ
う、と納得した。

「フィンランドのボラン
ティア消防」

フィンランドのボラン
ティア消防は、ドイツに
比べれば遙かに日本の消
防団に近い。通常は別の
仕事に就いており、出勤
指令を受けると、地域の
消防施設に駆けつけて、
消防車に乗って出勤す
る。

フィンランドでは、都
市部の消防は専従職員に
よる公設消防機関が担
い、地方では地域住民が
ボランティア消防組織
を結ぶ、契約内容に応じ
て活動費を支給される、
という点だ。

我々が訪問したヘルシ
ンキ郊外エスポ市（人
口7万人）のピトカヤル
ン消防団（同市には9
つの消防団がある）の場
合、ピトカヤルン地区

で自前の消防施設と二両
の大型消防車両を持つて
いる。消防団員数は女性
部門や青少年部門、ベテ
ラン部門（リタイア消防
団員）などを含めて10
0人くらいになるが、消
防活動に従事できるのは
30人程度だということ
だ。各部門では、毎週1
回訓練を行つており、研
修施設でより高度な訓練
を受けることもある。

防団という組織を経営し
てゐる、という感覚に近
い。

同消防団では、獲得し
た活動費は団の活動や施
設・装備の充実に充てて
いるといふことで、消防
団員個人の給与などには
してゐないようだった
が、給与や手当などとし
て個人に支給している消
防団もあるようだ。ドイ
ツでもらつた資料では、
そのような消防団は、
「ボランティア消防」でな
い。「パートタイム消防」
という分類になつてい
る。その資料によると、
フィンランドでは、専従
消防団員が1万8千人い
るが、専従職員3万9
千人に対し、ボランティ
ア消防団員はわずか1千
2百人で、パートタイム
消防団員が1万8千人い
る。

「社会の厚みとボランテ
ィア」

以上見て来たように、
ドイツでは、高水準の消
防力をボランティアが中
心になって維持するシス
テムが出来上がつてい
る。サッカーのJリーグ
のようなユース（青少年）
コースを作り、子供の時
からボランティアを育て
る仕組みも出来てゐる。
専従職員が少なく消防
に人件費がかからないの
で、その分、トレーニング
センター等の整備や維
持に十分な費用をまわせ
るようになってゐる。市
民の熱意をうまくみ上
げて回していく好循環を
作るのに成功してゐるよ
うだ。

イギリスでは、オック
スフォードの近くのスト
ウという古い小さな田舎
町の消防団を訪ねた。小
さな町なので、ボケベル
と人々を合わせた運転者
を救出する訓練が行われ
てゐた。日本では、消防団

がやらぬ救助活動を、
ストウの消防団はいつも
簡単にこなしてゐた。
消防の司令センターも
訪ねたが、各消防署の出
動可能な人員等がリアル
タイムで表示される司令
用のコマンドボードに、
消防団の詰所も公設消
防と同等に表示されてい
るのが印象的だった。

「社会の厚みとボランテ
ィア」

巧みな仕組みを作つて
も、それに心える厚い市
民層がなければうまくい
かない。

今回見て回つた各国で
は、市民は何らかのボラ
ンティア活動を行うのが
当たり前のようになつて
いて、消防が好きなのは
消防をボランティア活動
の対象として選んでい
る、と言つてゐるのかも
知れない。そう考えれ
ば、平日は仕事として消
防関係の業務を行い、出
動指令があれば昼夜にか
かわらず無給で消防活動
を行う、というドイツの
ボランティアの行動も納
得がいく。

各国共通して、夜間や
休日には時間を割いて
いても、夏のバカンス
などは、時期を調整して
しっかりと取つてゐるとい
うのも驚きた。

残業、残業で、わずか
なお盆休み以外には夏休
みもとりにくい日本と
は、労働環境自体が全く
違つても大きいに違
ない。

成熟した市民社会の厚
みは一朝一夕に真似でき
るものではない。日本が
、日本の若者が正規職
員として就職しにくくな
つてゐる昨今、イギリス
のパートタイム消防団な
どは、日本でも参考にで
きる可能性はあるのでは
ないか。

イギリスやフィンラン
ドの仕組みはドイツほど
衝撃的ではないが、お国
柄に合わせてボランティ
ア活動を消防の仕事に組
み入れる、様々な仕組み
を考へてゐた。

だが、行政がどんなに
あるまいか。

目からうろこ

ヨーロッパの消防とボランティア(2)

フィットネス↓立体迷路
↓フィットネスの順でク
リアして、ボンベに空
の残つてゐる間に帰つて
来る訓練だといふ。日本
なら特別救助隊員が行
うような過酷な訓練だ。体
力的にも心理的にもシビ
アなため必須ではない
が、消防活動訓練参加者
の6割が受講するとい
ふことだ。

他のコースは見ていな
いが、放射線事故や化学
災害への対応などの専門

消防の司令センターも
訪ねたが、各消防署の出
動可能な人員等がリアル
タイムで表示される司令
用のコマンドボードに、
消防団の詰所も公設消
防と同等に表示されてい
るのが印象的だった。

「社会の厚みとボランテ
ィア」

以上見て来たように、
ドイツでは、高水準の消
防力をボランティアが中
心になって維持するシス
テムが出来上がつてい
る。サッカーのJリーグ
のようなユース（青少年）
コースを作り、子供の時
からボランティアを育て
る仕組みも出来てゐる。
専従職員が少なく消防
に人件費がかからないの
で、その分、トレーニング
センター等の整備や維
持に十分な費用をまわせ
るようになってゐる。市
民の熱意をうまくみ上
げて回していく好循環を
作るのに成功してゐるよ
うだ。

イギリスでは、オック
スフォードの近くのスト
ウという古い小さな田舎
町の消防団を訪ねた。小
さな町なので、ボケベル
と人々を合わせた運転者
を救出する訓練が行われ
てゐた。日本では、消防団

がやらぬ救助活動を、
ストウの消防団はいつも
簡単にこなしてゐた。
消防の司令センターも
訪ねたが、各消防署の出
動可能な人員等がリアル
タイムで表示される司令
用のコマンドボードに、
消防団の詰所も公設消
防と同等に表示されてい
るのが印象的だった。

「社会の厚みとボランテ
ィア」

以上見て来たように、
ドイツでは、高水準の消
防力をボランティアが中
心になって維持するシス
テムが出来上がつてい
る。サッカーのJリーグ
のようなユース（青少年）
コースを作り、子供の時
からボランティアを育て
る仕組みも出来てゐる。
専従職員が少なく消防
に人件費がかからないの
で、その分、トレーニング
センター等の整備や維
持に十分な費用をまわせ
るようになってゐる。市
民の熱意をうまくみ上
げて回していく好循環を
作るのに成功してゐるよ
うだ。

イギリスやフィンラン
ドの仕組みはドイツほど
衝撃的ではないが、お国
柄に合わせてボランティ
ア活動を消防の仕事に組
み入れる、様々な仕組み
を考へてゐた。

だが、行政がどんなに
あるまいか。

イギリスやフィンラン
ドの仕組みはドイツほど
衝撃的ではないが、お国
柄に合わせてボランティ
ア活動を消防の仕事に組
み入れる、様々な仕組み
を考へてゐた。

だが、行政がどんなに
あるまいか。

イギリスやフィンラン
ドの仕組みはドイツほど
衝撃的ではないが、お国
柄に合わせてボランティ
ア活動を消防の仕事に組
み入れる、様々な仕組み
を考へてゐた。

だが、行政がどんなに
あるまいか。

イギリスやフィンラン
ドの仕組みはドイツほど
衝撃的ではないが、お国
柄に合わせてボランティ
ア活動を消防の仕事に組
み入れる、様々な仕組み
を考へてゐた。